

ご挨拶

日本住宅パネル工業協同組合理事長 田中 敬三

6月27日付けで理事長に就任いたしました。

日本住宅パネル工業協同組合（略称「パネ協」）は、1962年（昭和37年）の設立以来、組合員企業が工場で作成したパネルなどの内装部品を現場に搬入して組み立てる工法（内装パネル工法）によって、現場施工の大幅な省力化や工期の短縮、品質の安定化を進めてまいりました。この工法により、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの被災者向け災害公営住宅の建設では、早期の復興に貢献することができました。

現在は、内装パネル工法に加えて、システム収納ユニットや内装用不燃木材、木製手すりなど、多彩な内装部品を取り揃え、公共住宅から民間マンション、学校、庁舎、福祉施設、ホテルなど、さまざまな建築物の内装について、新築・リノベーションを問わず幅広く事業を展開しております。

さらに、これらの事業の実施に当たっては、地場産材を積極的に活用し、地域に密着した空間づくりや地場産業の振興、CO2の発生抑制にも努めております。

パネ協は、これからも、内装のプロフェッショナル集団として、快適な居住空間の創造に貢献してまいります。みなさまのご指導を心よりお願い申し上げます。



パネ協事務局人事

6月27日付けで、前理事長の瀬良智機及び前専務理事の高田裕章が退任し、前専務理事の田中敬三が理事長に、事業本部長の仙田誠及び西日本支所長の海谷公英が理事に選任されました。なお、瀬良智機は顧問に就任しました。

トピックス

能登半島地震被災地支援

七尾市テント村プロジェクトで感謝状拝受

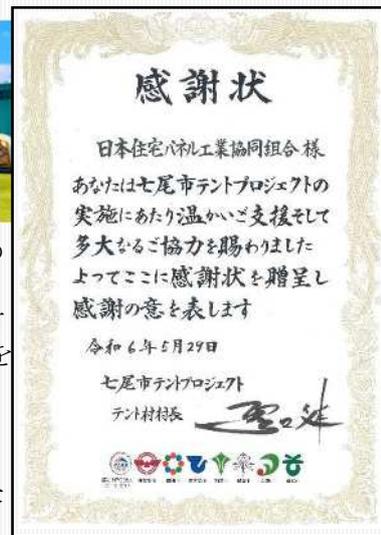
能登半島地震の災害ボランティアの宿泊拠点となっていた七尾市テント村が、2024年5月29日をもって運営を終了しました。このプロジェクトは、登山家の野口健氏が代表を務める認定NPO法人ピークエイドと岡山県総社市（片岡聡一市長）をはじめとする7市が主体となって、被災地である石川県七尾市内に100張りのテントを設置したものです。

3月24日の開設以降、地元の方々の協力も得て運営され、2カ月余りの間におよそ5,400名のボランティアの活動を支えてきました。

パネ協は協力団体として、テントの土台になる12mm合板450枚を寄贈するとともに、断熱材25mmスタイロフォーム450枚（デュポン・スタイロ株式会社から無償提供）と合わせて土台を設置し、テント村の設営を支援しました。

テント村を利用したボランティアの方々からは、土台があることによって下から雨が入り込む心配がなく、寒い夜も暖かく快適に過ごせたなどの評価をいただきました。

5月29日の閉村式には、パネ協からも専務理事（当時）田中敬三他が出席し、テント村村長野口健氏から感謝状を贈呈いただいた他、多くの関係者の方々から謝辞が寄せられました。



パネ協事務局新体制

新副部長メッセージ

事業本部 副部長
酒井 博司

建築業界は、担い手不足、建築資材の高騰に加え、2024年問題など、さまざまな課題に直面しています。そのような状況のもと、私たちパネ協は、得意とするパネル工法による工種削減、現場省力化による工期短縮といったメリットを活かしてお客様のご要望にお応えしてまいります。

また、地場産材を活用した組合員製品等による内装の木質化やZEH水準の省エネ工事に積極的に対応し、脱炭素社会の実現に貢献したいと考えています。

事業本部 副部長
菊地 啓文

建築・住宅産業は、人口・世帯数の減少、SDGs、カーボンニュートラル、木材利用の推進など様々な課題に直面していますが、関係各所の声に耳を傾けながら、一つ一つ取り組んでいく所存です。

また未来のパネ協事業をしっかりと見据えて、皆さんと共に持続可能な組織づくりに取り組んでまいります。





プロジェクト紹介

大阪府住宅供給公社 リノベーション事業「Re-KATTE」

「Re-KATTE（リカッテ）」は、大阪府住宅供給公社が令和2年度から実施している空き住戸リノベーション事業です。平成初期に建設したマンションタイプの団地において、「ちょっとリノベで、使い勝手のよいくらし」をコンセプトに、住空間や住宅設備等をリニューアルすることにより、住まいの「使い勝手」をよりよくするリノベーション事業です。

当事業において、和室を洋室化・LDK化にリニューアルする際に、従来の押入に替えてパネ協のシステム収納murex（ミューレックス）を設置いたしました。令和5年度末までに毎年度10戸程度ご採用いただき、合計44戸の施工を実施しました。



鷹合団地のLDKの事例
(大阪市東住吉区)



リニューアル前の押入



システム収納 murexミューレックスを設置

● ミューレックスについては、ホームページのパンフレットをご覧ください。 <http://www.panekyo.or.jp/product/storage/storage005.html>



プロジェクト紹介

鹿児島県立鹿児島南特別支援学校(鹿児島市)

2023年1月に竣工した鹿児島県立鹿児島南特別支援学校において、木製学校間仕切ユニット「エコール・F」をご採用いただきました。

「エコール・F」は、ユニットを工場で製作し、現場ではノックダウン方式による簡単な組み立て作業となることから、工期の短縮が図れるだけでなく、無駄な廃材も発生しません。

天然素材の木材は、調湿性や保温性に優れ、ぬくもりと優しい質感が豊かな教育環境を創造に寄与します。

また、衝突時の怪我を防ぐために角の部分は丸みをもたせた加工とし、出入り口には床面とフラットに仕上がるレールを採用しております。

なお、スロープ中央の隔て壁についても、パネ協が担当させていただき、エコール・Fの風合いに合わせて施工しました。



教室棟 2階廊下からみたエコール・F

木製学校間仕切「エコール・F」

スロープの隔て壁



外観

名称：鹿児島県立鹿児島南特別支援学校
所在地：鹿児島市西谷山2丁目5番3号
設計：東条・ゲンプラン・設備共同プラン設計共同企業体
施工：工区毎の特定建設工事共同企業体

● エコール・Fについては、ホームページのパンフレットをご覧ください。 <http://www.panekyo.or.jp/product/partition/partition002.html>



パネ協 23年度 国産材使用実績約4600m³ 炭素貯蔵量約3250トン

パネ協における2023年度の国産材の使用実績は4,593m³となり、林野庁のガイドラインに基づいて計算した炭素貯蔵量（CO₂換算量）は3,253トンとなりました。使用した国産材のうち約2/3は、使用される地域で生産された地場産材が占めています。

パネ協は、集合住宅の間仕切りや棚などの各種木質パネルの芯材、床の下地や仕上げ材、小中学校や福祉施設の内外装や家具、建具、手すりに加え外構にも地場産材をはじめとする国産材を積極的に活用しています。

3,250トンは
10ha(東京ドームの2.1倍)のスギ林が
1年間に吸収する二酸化炭素量
37年分に相当します



短信



2024年6月、パネ協名古屋支所は、徳倉建設株式会社及び本店徳友会 労働災害防止協会様から、医療法人愛知会 家田病院建替新築工事の施工に当り、綿密周到な安全管理により重大災害ゼロ運動の推進に寄与したとして安全優良賞の表彰を受けました。